

五十嵐久美子展

—風のむこうに—

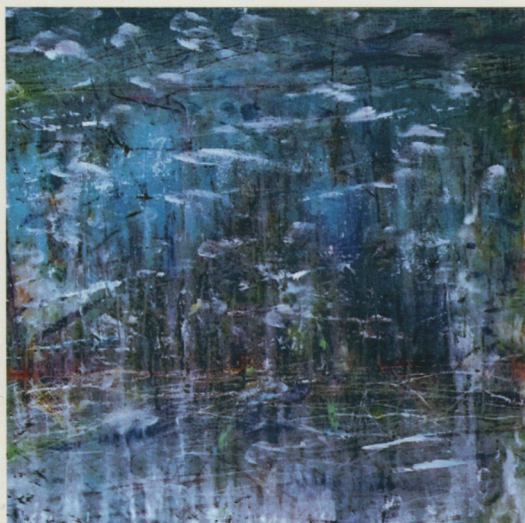
2019.1.28 (mon) — 2.2 (sat)

11:00am~6:00pm (最終日4:00pm終了)

この度、五十嵐久美子の個展<—風のむこうに—>に先立ち彼女の幾つかの作品を拝見した。これら作品の表題からも察せられるのだが、彼女の表現の奥底には生まれ育った風土への切々たる思いが込められているようだ。もう少し作品の中に入ってみよう。例えば「風の森」(S10)はまず郷土の風の印象が強く刻まれている。強風ゆえの木々のざわめきが青色の濃、淡となって画面一面に響き渡っている。さながら生き物のように風が森の中で咆哮しているかのようだ。次に「雪あかり」(S10)だが雪国出身ならではの彼女の作品。これも画面全体が青基調の、その濃淡で構成されている。ここに縦中央に一本、横に4本、強い線が引かれているが、この線を私は単なる線とはどうしても見ることが出来なかった。彼女の消すに消されぬ記憶と言ったものが印されているのだろう。またそこに数多点在する白いあかりは厳しい風土の中でさえ、ささやかでも希

望を求めざるを得ない心が暗示されているのかも知れない。次の「海の風」(S10)は、これも日本海沿いに育ち海の青に人一倍思いを馳せる彼女ならではの作品。十字状に引かれた線の中央部に海の深度が感じられるがその周辺からは海鳴りが轟いてくる。彼女は海の底に何を見ようとしていたのだろうか。今回のサブタイトルともなった「風のむこうに」(F30)は白い絵具が激しい雨もよみの海風となって彼女に叩きつけるように、吹き付けている。その「風むこうに」郷土への、人生への万感の思いが込められていよう。何れにしても、これら作品からは彼女が生まれ育ち、そして見つめて来た青春時代の哀しみと寂寥感が垣間見られるのである。原点に遡ることは彼女のこれからの画業に大いに資することになるだろう。

御子柴大三 (美術評論家)



雪 S10 2018



風の森 S10 2018



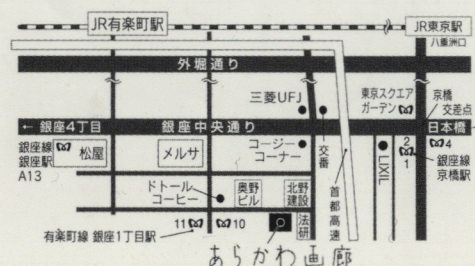
雪あかり S10 2018



海の風 S10 2018

あらかわ画廊

〒104-0061 東京都中央区銀座1-10-19銀座一ビル3F
Tel/Fax.03-3566-5213
E-mail: arakawagarou@peach.plala.or.jp



福井県生まれ

2016 自由美術展佳作賞受賞

2017~ 自由美術協会会員

<個展>

2011 ギャラリーゴトウ(銀座)

2011 スペース 縁(国分寺)

2012 ギャラリー枝香庵(銀座)

2013 ギャラリーゴトウ(銀座)

2015 あらかわ画廊(京橋)

2017 あらかわ画廊(京橋)

2017 巷房(銀座)

2019 あらかわ画廊(銀座)

<グループ展>

2013 中和ギャラリー(銀座) 夏のシンホニー(〜毎年)

2014 ギャラリー枝香庵(銀座) SUMMERFESTA('15'18)

2016 ギャラリー枝香庵(銀座) 10周年記念展

2017 ギャラリー枝香庵(銀座) はじめ展

2017 parosギャラリー(大森) 自由美術佳作賞展

2018 GALLERY STORKS(表参道) Spiegelbild Teil2

2018 CWAJ(代官山) 現代版画展

2018 金沢21世紀美術館(石川) Link展